



## ごあいさつ

初夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、当金庫の第93期（令和2年度）の業務概況と決算状況をご報告申し上げるにあたり、平素より会員並びにお取引先の皆様方からご支援、ご協力を賜りまして、衷心より厚くお礼申しあげます。

さて、令和2年度のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による人々の移動制限や企業活動の停滞を受け、リーマンショック直後に匹敵するマイナス成長となりました。政府による企業の資金繰り支援や給付金等の家計支援の効果もあり、5月の緊急事態宣言の解除以降、徐々に景気は回復傾向にありましたが、都市部を中心に感染が再び広がりを見せる等完全な終息には程遠く、先行きの不透明感を払拭できる状況には至っておりません。

当金庫の営業区域内においても観光関連業、飲食業を中心に多くの業種に影響が及んでおり、急速に進展する高齢化、人口減少という地域の抱える構造的な問題とともに、大きな不安材料となっております。

このような経済環境の中で、当金庫は地元の皆様方の温かいご支援の下、役職員一同が一致団結して、営業基盤強化と地域社会との共生に向けて努力して参りました結果、当期末の預金残高は1,589億円（前期末比9,557百万円増加）となりました。一方貸出金は「地元とともに」のスローガンのもと、特に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者への資金繰り支援など、地元の皆様方の資金ニーズに積極的に取り組んで参りました結果、当期末の貸出金残高は876億円（前期末比7,066百万円増加）となり、預貸率は55.16%となっております。

また、収益面では経営の自己責任に則り、資産内容の健全化と体質の強化を図るため貸出金等の不良債権処理の実行、償却・引当を厳格に実施しました。貸出金利息減少分を積極的な余資運用によりカバーして、安定したコア業務純益を計上し、当期純利益454百万円を計上することとなりました。これも当金庫の経営理念である健全経営に徹した結果であるご認識をいただき、よろしくご支援の程お願いいたします。

なお、当期末の自己資本比率は、貸出金残高の大幅な増加を主な要因として、20.45%（前期末20.67%）となりましたが、国内で業務を行う金融機関に義務付けられる国内基準4%及び令和元年度全国信用金庫平均12.10%を大幅に上回っており、経営の健全性確保に些かの狂いもありません。

迎える令和3年度は新型コロナウイルスの影響を受ける地元事業者への積極的な金融支援を行うとともに、本業支援・事業継続支援に積極的に取り組むことで、協同組織金融機関の理念に沿い、地域との連携を更に深め、十分な金融仲介機能の発揮をしてまいります。また、新しい生活様式により急速に進展するデジタル化への対応等、非金融面も含め顧客本位の業務運営によりサービス提供力の一層の強化を図ることで、引き続き信用金庫の社会的使命、役割の遂行に努めて参る所存でございます。

このために、当金庫は、これまで各関係機関との間で締結した業務連携にかかる各協定に基づく連携・協力を一層密にして、地域経済の活性化に向け取り組んで参ることとしております。

何卒、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年6月

幡多信用金庫

理事長 松田 基